

主体的に追究し、共に高め合い、学びを生かす子どもの育成  
～算数科の学習における「問題把握力」「多面的思考力」の育成をめざして～

普段の児童の傾向

- 素直であるが、主体性、表現力に課題
- 学び合いによって、学習を深化し、個々の学力に反映させていくことが不十分な傾向
- 学習がその場限りで、次の学習や、暮らしの中で学んだことを生かすことに課題

鳥根県学力調査の結果から

- 基礎基本的な表現処理能力に比べ、数学的な思考力に課題

主体的に追究し、共に高め合い、学びを生かす子ども  
算数科における数学的な思考力の育成

問題把握力

問題状況の中から、問題解決に必要な事柄や関係を的確に選択してよりよい解決方法を見いだす力

多面的思考力

問題解決するに当たり、自分なりの方法をいくつか考え、問題を解く力

I 授業作りの取組

1 問題把握力・多面的思考力評価基準の設定

- ・6 年を見通した段階的な評価基準の設定
- ・学年に応じた評価規準を設定し授業化（低学年ではD、中学年ではC、高学年ではBを規準として）

思考力評価基準	学年のめやす	多面的思考力	
問題把握力			
A	問題状況の中から、問題解決に必要な事柄や関係を的確に選択して、よりよい解決方法を意図した表現ができる	A	いくつかの方法で解いている(異なった視点で)
B	問題状況の中から問題解決に必要な事柄や関係を選択して、絵、図、言葉を使って表現できる	B	いくつかの方法で解いている(同じような視点で)
C	問題状況の中の事柄や関係を絵、図、言葉を使って表現できる	C	1つの方法で解いて、さらに別の方法を考えている
D	問題の状況を具体物を操作して表現できる	D	1つの方法で解いている
E	問題の状況を絵を見て話したり、具体物を使って表現できない	E	解き方を思いつけない



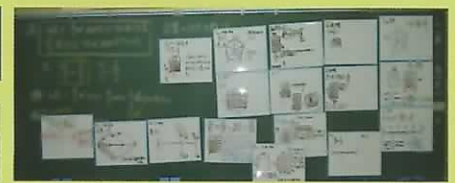
いろいろな方法でかけ算を作ろう

2 主体的に取り組む単元構想の工夫

- ①導入の工夫（問題・提示の工夫）
- ②個別の追究を保障する場の設定
- ③共に高め合える場の設定
- ④学びを活用する場の設定
- ⑤個の実態把握と支援の工夫

3 指導力向上の取組

- ・事前研修会
- ・模擬授業

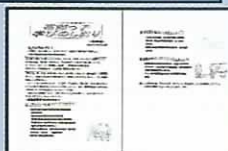


分数×分数の計算のしかたを考えよう

文章だけの問題提示等の工夫と、個別の追究時間を保障することで、問題把握のための図をかいて考えることが出来るようになってきた。子どもの考えを認め、多様に考えることを促すことにより、いろいろな解決方法を考えることができるようになってきた。話し合い活動により、自分の考えを説明し、友達の考えを自分に生かすことができるようになってきた。問題把握力、多面的思考力のレベルアップが図られてきた。

II 基礎・基本の定着、学習習慣形成の取組

- ・スタート学習（朝学習）  
思考力を高める問題
- ・家庭学習  
学びのしおり 自主学習



III 生活習慣形成の取組

- ・はっぴいちょきんカード
- ・学校保健委員会
- ・脳力アップ講演会

